

Q3 最近の“挑戦”は。

毎年、異なる言語や文化のオペラに挑戦しています。その都度、膨大な勉強が必要で気分は毎年“受験生”のようです。2026年2月には島根県民会館で、これまで最も高音域のパートに挑みます。挑戦する分野に詳しい人がいれば、年齢や立場に関係なく教えるを請います。「いいね」の数や声援はもちろん大きなモチベーションですが、自分が納得できる瞬間や喜びも大切にするようにしています。



東京二期会「午後の曳航(えいこう)」©寺司正彦



東京二期会「精姫」©長澤直子

Q4 故郷・鳥取県への思いは。

都市圏から遠く、人口が少ないなど何かに取り組むには不利な面があると思っただけで、地元から多くの出演機会をいただき、おかげで同世代よりも多くの場数を踏ませてもらいました。人口の多い東京都出身のアーティストでは、こっちはなかなかありません。故郷の支援がキャリアの基盤になっています。鳥取県には、「このジャンルは自分」とアピールしたい人を見つけ出し、応援して下さる温かきがあるように思います。

Q5 夢や目標が見つからない高校生にメッセージを。

「この時間って何」と思える経験も、後々、人生の糧になることを実感しています。僕の場合、好きなマンガやゲームが縁で、仕事につながるがあります。好きなことや趣味は肯定して大切にしてください。音楽家でも、音楽とは無縁のスポーツ出身者が活躍している例もあります。視野を広く持ってたくさんの経験をしてください。

山本耕平さん出演舞台情報

東京二期会「ルル」

2026年4月11日、17～19日
新国立劇場
オペラパレスほか
主催：公益財団法人東京二期会
詳細はコチラ▶



東京二期会「ルル」©西村廣紀

Q2 うまくいかなかったときの乗り越え方は。

イタリアに渡った当初、全く通用せず、自分でも何が決定的に足りていないような違和感がありました。舞台に出演しないことを決め、約2年半立ち止まって、師匠と基礎から練習をやり直しました。「止まるときは止まる、動くときは動く」。自分の感覚を受け止め、時には勇気を持って立ち止まってみたことが今につながっているように思います。

スポーツクライミング選手の林かりんさん、オペラ歌手の山本耕平さんが、それぞれの夢や目標に向かって進む高校生・高専生にエールを送ります。
[全2回の第2回]



夢を追う
みんなへエール

山本 耕平

Kohei Yamamoto

オペラ歌手/テノール

PROFILE

米子市出身。東京学芸大学教育学部クラリネット専修を経て東京藝術大学声楽科卒業。同大学院及びミラノ・ヴェルディ音楽院を修了。国内外で多くのオペラに主演。令和4年度鳥取県文化奨励賞受賞(第1回)。洗足学園音楽大学等で後進の指導にも当たっている。二期会会員。

林 かりん

Karin Hayashi

スポーツクライミング・女子スピード種目
日本記録保持者

PROFILE

2005年3月20日、北栄町生まれ。23年世界ユース選手権スピード種目・女子ジュニア(18～19歳)で、日本勢女子として初優勝。23、25年のスピード・ジャパンカップで優勝。自己ベストの7秒18は女子日本記録。鳥取県山岳・スポーツクライミング協会所属。



Q4 現在の目標を教えてください。

最大の目標は、2028年のロサンゼルス五輪に出場することです。その過程として、ワールドカップや世界選手権で表彰台に立ちたいと考えています。日本女子選手で6秒台を出した選手はまだおらず、私とその記録に最初に到達することも目標の一つです。



Q5 夢や目標に向かう高校生にエールをお願いします。

楽しむことが一番です。目標に向かう過程ではしんどいこともあると思いますが、達成したときの喜びを思い浮かべてみてください。夢や目標はまだ見つからない人は、気になることは何でも挑戦してみるといいと思います。私は悩んだときや思い通りにいかずイライラしたときは、そのときの気持ちを紙に書き出しています。思っていることをそのまま書いてみると頭の中が整理され、自分を客観視できます。ぜひ試してみてください。

Q1

スポーツクライミングとの出会いを教えてください。

ボルダーが趣味の父の影響で、小学6年のときに競技を始めました。中学では水泳部に所属しながら本格的に取り組み、卒業後は部活動が盛んな鳥取中央育英高へ進学しました。スピード種目は、高さ15mの壁を登る速さを競います。練習を積んだ分だけタイムが縮まるのが魅力で、競技を始めたばかりの中学時代には一気に1秒速くなることもありました。

現在は鳥取県を

Q2

拠点にされていますが利点はありますか。

練習拠点である倉吉スポーツクライミングセンターは、自宅から約15分ととても近いのが最大の利点です。他県では練習施設まで片道1時間～1時間半かけて通う選手もあり、鳥取県の練習環境は抜群に恵まれていると感じています。週4～5日の練習ではスピード壁やボルダー壁を登るほか、チューブを使った筋力トレーニングなどにも取り組んでいます。

Q3

高校時代の思い出はありますか。

学業とスポーツの両立はすごく大変でしたが、楽しみながら大きな目標に向かって競技に打ち込んでいました。高校3年のときにはワールドカップに出場し、2024年のパリ五輪を目指しました。卒業後の進路は進学か就職を選ぶのが一般的ですが、私はどちらも選ばず競技を続ける道を選びました。私の考えを理解し、支えてくれた先生に巡り合えたことに、とても感謝しています。



とっとり未来創造プロジェクト —挑戦— 協賛企業・団体 私たちは若い世代の挑戦を応援しています

